

## 秋の味覚続々！

早いもので今年も残り2か月をきりました。例年であればそろそろ冬支度を始める頃ですが、まだまだ日中は暖かい日が続いており、紅葉の見頃ももう少し先になりそうです。

一方で売り場は秋一色。待望の“日本の茸の王様庄原産「松茸」”や“茸の女王「香茸」”を筆頭に、ほうれん草や春菊などの葉物野菜も増えてきました。

高野大根はおでんなどの煮物にピッタリの品種「冬自慢」の入荷がスタートし、高野りんごは「王林」や「ぐんま名月」など晩生種が続々と登場しています。

朝晩の寒暖差が大きいこの季節、体調には十分注意しながら元気に楽しく忙しい行楽シーズンを乗り切っていきましょう！

道の駅たかの 2024.11.5

(広報・企画グループ)

庄原市高野町下門田49

☎0824-86-3131

michieki\_tak@takanoyama.jp

<https://www.takanoyama.jp>

★Twitter・インスタも更新中♪



初入荷の松茸 (10月25日)

## 環境に優しい駐車場が完成しました♪

国土交通省では2020年～2025年までを道の駅「第3ステージ」と位置づけ、道の駅を核にした地方創生と道の駅の持続可能な安定運営を目指した取り組みを推進しています。

その取り組みの一環として、要件を満たす全国5箇所の道の駅にて、セメントを使用しない環境に優しいコンクリートを使用した舗装工事の実証実験を開始。なんとその5箇所の1駅として、道の駅たかのが全国1,000を超える道の駅から選出され、先日舗装工事が行われました。

このコンクリートは奥村組土木興業株式会社（大阪市）が開発を進めてきた「ゼロセメント・コンクリート」技術が用いられ、鉍石から金属を精錬する際に排出される「スラグ」と呼ばれる、通常はごみとして処分される産業副産物をセメントの代替品として使用することで、セメント製造時に発生する大量のCO2を削減できるのだとか。最先端技術の結晶が全国に先駆けて道の駅たかのの駐車場に採用されたのは嬉しい事です。ご来店の際は芝生広場奥の新しい駐車場も要チェックです♪



ゼロセメント・コンクリートの駐車場 (20台分)

## 11月のイベント予定

11月12日 (火)	庄原ジョイフル イベント販売 (庄原)
11月19日 (火)	庄原里山マルシェ@広島駅新幹線口 (広島市) 出張販売
11月22日 (金)	エキパマルシェ@エキキタパーク (広島市) 出張販売
11月23日 (土) ・24日 (日)	シクラメン祭り@道の駅湯の川 (出雲市) イベント販売

七塚町で養蜂家をしております長迫と申します。62歳から養蜂を始め、今年で16年目を迎えます。会社を定年退職する3年ほど前に、先に退職された先輩から蜂の待受箱をいただいたのがきっかけで養蜂を始めましたが、最初に置いた巣はすぐに消滅してしまいました。その後、蜂と巣箱を販売されていた鳥取県の伯耆町に住む師匠と出会い、養蜂に関する様々なことを教わりながら現在に至ります。

ニホンミツバチは子孫を増やすため、5月ごろになると冬を越した1つの群れから母女王が働き蜂半分を連れて分蜂（生まれた巣から出て新たな巣を作ること）し、続けて新女王がまた半分の働き蜂を連れてどんどん分蜂していき、3つから4つの新しい群れを作ります。元巣（最初の巣）には最後に生まれた女王が残り、新たに群れを増やします。その分蜂した群れを捕獲してどんどん巣箱を増やしていきます。



花粉をたっぷりつけて巣箱に戻ってきた蜜蜂。巣の出入口は蜜蜂だけが通れる6mmに統一。3方に出入口を作り風通しを良くしている。



長迫さんと巣箱。夏は日陰になり、冬は日が当たって暖くなるよう落葉樹の根本に南向きで巣箱を設置する。

女王蜂の寿命は2年から3年と長く、ピーク時には1日千個以上の卵を産みます。一方で働き蜂の寿命は1か月から4か月と短く、産まれてからしばらくは内勤蜂として巣の中で育児や巣作りなどをし、その後外勤蜂として花粉を集めるようになります。働き蜂1匹が生涯で作る蜂蜜はティースプーン1杯ほどの量になります。9月下旬ごろから採蜜作業を開始。1つの群れで年間6kgほど採蜜することができます。それ以降に出来る蜂蜜は越冬用に残します。

冬場は巣にダニが湧き、蜜蜂に寄生することがあります。そこで対策として染物屋からシュウ酸を仕入れ、巣箱の中で燻蒸させることで蜜蜂に寄生したダニを駆除しています。今年はこの対策が功を奏し多くの巣が越冬し、40群まで巣を増やすことができました。

スーパーなどで販売されている外国産の蜂蜜と違い、ニホンミツバチの蜂蜜はフルティーさと味わいが随分違います。道の駅たかののの対面販売でお客さんに試食してもらおうとその味の違いに驚かれます。

養蜂は蛾やスズメバチなどの外敵対策や巣箱作り、花の管理など1年を通して大変手間がかかりますが、春になって元気に分蜂していく蜜蜂を見ると大変嬉しく、やりがいを感じます。これからも上質な蜂蜜を皆さんにお届けしたいと思っています。